

その日常を

アワードへ！



令和2年度

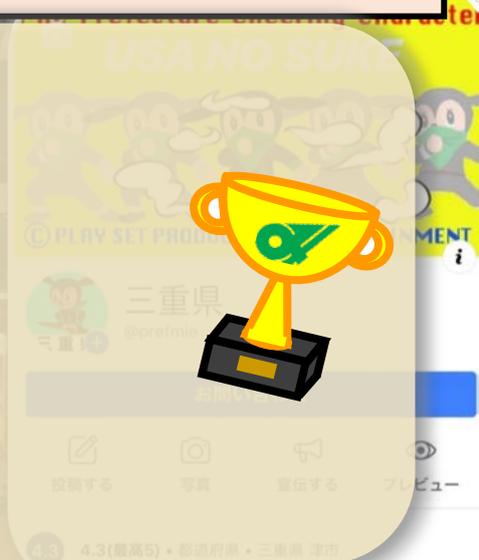
M I E 職員力アワード

発表会



日時 令和3年3月18日(木)  
13:30~15:45

場所 職員研修センター第1教室  
(三重県勤労者福祉会館5階)





# 令和2年度M I E職員カアワード受賞取組

※順番は発表順

## 【改善活動分野】

- (1) コロナに負けやん！官民連携の産地ロス削減に向けた取り組み！ …… 1  
＜伊勢農林水産事務所ワーキンググループ＞
- (2) 災害に備える取り組み「防災ピクニックに参加しよう！」 …… 3  
＜一志病院＞
- (3) 予算業務の平準化や自動化による働き方改革！ …… 5  
＜財務管理課予算管理班＞
- (4) 「MieMu@ほーむ」でステイホームを楽しく過ごそう！ …… 7  
＜三重県総合博物館（MieMu）＞
- (5) 松阪どぼくゼミ（技術の伝承・技術力の向上にむけて） …… 9  
＜松阪建設事務所 松阪どぼくゼミ＞
- (6) データベースを利用した立入検査証の作成について …… 11  
＜大気・水環境課＞
- (7) 医療用ガウンの代替品作成ボランティア活動 …… 13  
＜イガケンゼイ♪メイクガウン・プロジェクト＞

## 【グッドパフォーマンス分野】

- (8) “素人×ゼロ予算”の挑戦！インスタによる「みえファン」づくり …… 15  
＜農林水産部公式 Instagram 運営チーム＞

部門名	協創推進部門
活動テーマ	コロナに負けやん！官民連携の産地ロス削減に向けた取り組み！
アピールポイント	<p>コロナ禍で出荷ができない農林水産物を販売することで、食品ロス・産地ロスを削減。民間企業・町と連携し、インターネットでの販路を確立し、継続的な販売が可能になりました。</p>
グループ名	伊勢農林水産事務所ワーキンググループ
現状や課題、設定した目標	<p>日本において、規格外の農林水産物や賞味期限間近の商品が廃棄されるなど、食品ロス・産地ロスが問題となっています。それに加え、コロナ禍で行き場を失った農林水産物が多く発生しており、三重県の農林水産物においても、業務において普段接している農林水産事業者から懸念の声があり、さらなる食品ロス・産地ロスが起きることが考えられました。そこで社会的課題となっている農林水産物の食品ロス・産地ロスの課題解決のために、新たな販路を確立し、三重県の農林水産物の販売を促進させることを目標としました。</p>
取組の検討プロセス、改善点等	<p>管内の直売所等を対象に聞き取り調査を実施し、養殖真鯛、みかん、茶等が販売に困っている状況でした。特に、南伊勢町の養殖真鯛については、生簀が真鯛であふれ、次の稚魚も生簀に入れられず、来年以降に出荷するための養殖もできない状況でした。そのため、まず真鯛の販売促進を中心に取り組み、それを他の品目に広げていくこととしました。</p> <p>販売については、タベループを運営するバリュードライバーズ(株)(本社東京)と、南伊勢町に協力依頼し、打ち合わせはWEB会議で実施しました。</p>
効果、成果、今後の展開	<p>コロナ禍で販売先を失った生産者とタベループを繋げることにより、養殖真鯛300匹やみかんジュースを販売することができ、食品ロス・産地ロス削減に貢献できました。また、タベループと提携している三井不動産の協力も得て、メルマガにおいて産地(養殖真鯛)の現状を伝えることができました。</p> <p>南伊勢町フェアが好評で2度開催するなど、新たな販路を開拓したことで、今後も継続的な販売が可能となりました。今後は対象を拡大(お茶、海藻類等)するとともに、三井不動産が管理するマンションのマルシェの活用など三重県産品の販売を促進していきます。</p>
工夫した点や苦労した点	<p>インターネットへ商品を掲載するだけでなく、生産者のビデオメッセージやおすすりめレシピを掲載し、生産者の想いを届けることで、食材を一層PRすることができました。</p>

# コロナに負けやん！ 官民連携産地ロス削減に向けた取り組み！

## 課題

食品ロス・産地ロス + コロナ ⇒ 更なるロスの懸念

## 取組

- 直売所や生産者への聞き取り調査
- 官民の連携  
( 県、南伊勢町、バリートライブズ、三井不動産の連携 )
- コロナ禍のため WEBによる打ち合わせ ( 計9回 )
- バリートライブズによる南伊勢町視察の企画・案内
- インターネット(外グループ)での 南伊勢町フェアの開催  
(好評につき2度の開催)

## 成果

- 養殖真鯛300匹・みかんジュース等の販売実績
- 全国ネットのニュースに取り上げられる
- 三井不動産のマンション住人向け メルマガ配信
- インターネット(外グループ)での 継続した販売

いま、わたしたちができること。

約1万尾の真鯛が食品ロスのゼロに！

tabletop

オススメ Recipe

Side: 簡単豪華★シーフードあおさバリエア

Side: 真鯛のカルパッチョが香味ソース

メルマガ特設ページ



みかん畑の視察風景

部門名	協創推進部門
活動テーマ	災害に備える取り組み「防災ピクニックに参加しよう！」
アピールポイント	
<p>日頃から災害への備えが出来ているか、地元の関係団体等と連携して防災イベント「防災ピクニック」を開催しています。看護学生にも参加していただき、住民の皆さんと楽しく体感しながら災害への備えについて学びます。</p>	
グループ名	一志病院
現状や課題、設定した目標	
<p>非常用持ち出しリュックに防災グッズを入れっぱなしにして、何を入れていたのか忘れてしまっている。あるいは非常食の賞味期限を確認していないことがある。また、災害時には何が本当に必要なのかは、使ってみて初めてわかるものなので、それを防ぐためには定期的なチェックが必要です。さらに、日頃から一次避難場所や家族の最終集合場所をチェックし、避難ルートを確認しておくことも必要です。そのため、地域の関係者が連携して、住民の皆さんが楽しく体感しながら、防災を学ぶイベントを開催することとしました。</p>	
取組の検討プロセス、改善点等	
<p>津市白山・美杉地域の保健・医療・福祉に係る公的な機関が情報交換を行う「美杉・白山・一志 保健医療福祉連携会議」において、津市白山保健センターの保健師から当該地域の住民の皆さんに防災に関心をもってもらうイベントを計画しており、一志病院に対して協力依頼があり、協同して「防災ピクニック」を始めました。「防災ピクニック」は、平成28年度から毎年開催しており、一志病院の看護師が応急手当の実践や感染症対策の講演、津市白山保健センターの保健師と地元の健康づくり推進員が非常食の紹介や避難所パーティーづくりなど役割分担をして実施することにしました。参加者には、自宅に置いてある非常用持ち出しリュックを持ち寄ってきてもらって、「防災ピクニック」に取り組んでいただきました。</p>	
効果、成果、今後の展開	
<p>毎年、定期的に非常用持ち出しリュックの確認や、ハザードマップを見ながら避難ルートを確認し合うことで防災意識が高まりました。参加者は、健康づくり推進員の呼びかけで各地区の代表者の方が中心となっており、「防災ピクニック」で学んだことを各地区において取り組んでいただきたいと考えています。また、「防災ピクニック」での知識を生かして、日頃の会話から自分にあつた防災グッズを購入し、オリジナルの非常用持ち出しリュックを準備していただきたいと考えています。</p>	
工夫した点や苦労した点	
<p>今年度は、新型コロナウイルス感染症への対策のために参加者には自宅での検温など健康チェックをしてきてもらうとともに、会場の受付においても検温や消毒をお願いし、プログラムの見直しや会場内が密にならないよう配慮しました。また、今年度は一志病院での看護学生の実習が見送られたことから看護師のみの対応となりました。</p>	

# 1. 現状・課題

- 非常用持ち出しリュックに「防災グッズ」を入れっぱなし……
  - ①何を入れたか忘れてしまっている。
  - ②非常食の賞味期限が切れてしまっている。
  - ③何が本当に必要なのかわからない。
- 非常用持ち出しリュックは準備しているものの……
  - ①避難場所が曖昧になっている。
  - ②避難ルートがよくわかっていない。



# 2. 取組内容

## みんなが楽しく学べる「防災ピクニック」を開催！

### (1)非常用持ち出しリュックの点検

- ・自宅から持ち寄ったリュックの中身を「非常時の持ち出し品チェックリスト」等で確認。



### (2)避難場所や避難ルートの確認

- ・自分が住んでいる地域の洪水ハザードマップを見ながら自宅付近や避難場所をチェックし、避難ルートを確認。



### (3)応急手当の講習

- ・一志病院の看護師によるレジ袋などを身近な物品を活用した応急手当の講習。



### (4)非常食の試食会

- ・賞味期限の迫った非常食をおいしく食べられるよう、ひと手間かけて調理して、皆で試食。



今年度は未実施

# 3. 成果

- 定期的な確認
  - ・非常用持ち出しリュックの中身や、避難所や避難ルートを確認し合うことで、いつ発生するかわからない災害に対応できる準備が出来ました。
- 防災意識の向上
  - ・住民のみなさんが「防災ピクニック」で災害時の対応など学ぶことで防災意識が高まりました。

# 4. 今後の展開

- 参加者に期待すること
  - ・「防災ピクニック」で学んだことを各地区の住民のみなさんに広めていただきたい。
  - ・「防災ピクニック」で学んだ知識を生かして、日頃の会話から自分にあった防災グッズを購入し、オリジナルの非常用持ち出しリュックを準備していただきたい。

部門名	ワーク・ライフ・マネジメント部門
活動テーマ	予算業務の平準化や自動化による働き方改革！
<b>アピールポイント</b> 「予算業務は忙しいもの」という前提から見直し、作成資料の簡素化やレク日程の調整、データ入力の自動化など短期間で効率的に仕事ができる工夫をしました。	
グループ名	財務管理課予算管理班
<b>現状や課題、設定した目標</b> ◆課題 ・約1カ月の間に予算見積書の取りまとめやレク資料の作成、議案・予説の作成などを行う必要があり、12月補正予算に係る事務作業が始まる9月から当初予算を経て最終補正予算の3月までは業務が集中し、時間外勤務が常態化していました。 ・取りまとめや議案・予説の作成には、財務システムから抽出したデータを「予算管理ファイル」に手入力で転記する必要があるため、転記ミスが発生し、その確認・修正に時間を要していました。 ◆設定した目標 ・予算業務を見直し、効率化を図ることにより、時間外勤務時間を削減する。	
<b>取組の検討プロセス、改善点等</b> 年度当初から班ミーティングを行い、予算業務の内容を見直しました。 ◆業務の平準化 ・レク資料の作成や修正には相当な時間を要するため、余裕のあるレク日程を設定するとともに、早い段階での事業課への聴き取りや調整を行うことで、業務時間を確保しました。 ◆業務の効率化 ・レク資料について、重複する内容や転記ミスの多発箇所を見直し、資料を簡素化しました。 ・手作業で行っていた「予算管理ファイル」のデータ入力を自動化しました。 ◆意識の変化 ・各人が勤務時間内の業務完遂を意識し、効率よく仕事を進めました。	
<b>効果、成果、今後の展開</b> ○効果 ・職員の時間外勤務が8割以上減少しました。 ・業務に余裕が生まれ、聴き取りや確認作業に時間を充てることができ、ミスの防止につながりました。 ・時間外勤務の減少が実績として現れたことで、勤務時間内の事務完遂を各人がより意識するようになりました。 【参考データ】 1人あたり（計4人）平均時間外勤務時間数（予算時期：9～1月実績） ・R元年度：95時間 ⇒ R2年度：12時間（前年度から約87%減少） ※4～1月実績でもR元：115時間→R2：23時間（約80%減） ※時間数は災害待機等を除く。 ○今後の展開 ・人事異動により職員構成が変化しても、業務改善に取り組む姿勢や勤務時間内に事務を完遂する習慣を継承していきます。また、現職員が主体となって関連する所属や異動先へもノウハウを共有したいと考えています。	
<b>工夫した点や苦勞した点</b> 「予算管理ファイル」の入力自動化にあたり、誰でも改修作業ができるよう作業手順に沿ったマニュアルを作成しました。	

# 予算業務の平準化や自動化による働き方改革！

現状・課題

予算業務が集中する9～3月の時間外勤務が常態化している。

⇒ 年度当初から班のミーティングを行い、予算業務での時間外勤務が増える理由を整理。

原因

- ・多数の説明資料を作成する必要がある。
- ・日程がタイトである。(1ヶ月以内に各課の予算要求を調整し、レクや議案の作成を行う。)
- ・表計算ソフトへの手入力箇所が多く、入力や確認作業に時間を要する。

取組内容

## ①業務の平準化

- ・余裕のあるレク日程を設定し、作業時間を確保した。
- ・予算編成前に予め懸案事項を整理し、担当課と調整を行った。

業務の平準化

## ②業務の効率化

- ・レク資料中の文章を簡素な表現に改めた。
- ・重複内容を削除し、転記ミスが多発する箇所を見直した。
- ・データ入力の自動化によってレク資料や議会資料の作成時間を短縮

資料を簡素かつ正確に

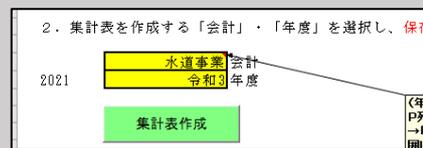
従来の作業

表計算ソフトで抽出した予算データを資料作成用のファイルに手作業で転記。  
(入力箇所：1000箇所以上)



抽出用のファイルとレク・議会資料用ファイルを統合

データの抽出からレク資料、議会資料作成までの一連の作業の大部分を自動化。



工夫した点

入力自動化に向けて、誰でも改修作業や新ファイルの操作ができるように改修・運用マニュアルを作成した。

## ③意識の変化

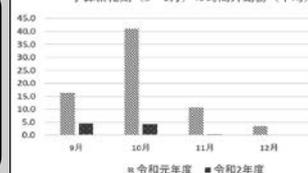
- ・勤務時間内に事務を完遂するという意識が芽生えた。

成果

時間外勤務 **87%の削減** (予算繁忙期：9月～1月の前年度比較)

- ・時間的な余裕ができたため、チェック作業に充てる時間が増え、ミスの防止に繋がった。

予算繁忙期(9～1月)の時間外勤務(平均)



今後の展開

- ・人事異動により職員構成が変化しても、業務改善や勤務時間内の業務完遂を継続する。
- ・関連する所属や現職員の異動先へもノウハウを共有していきたい。

部門名	サービス向上部門
活動テーマ	「MieMu@ほーむ」でステイホームを楽しく過ごそう！
アピールポイント	おうちでMieMuを楽しもう！「MieMu@ほーむ」
グループ名	三重県総合博物館（MieMu）
現状や課題、設定した目標	<p>時間と費用をかけずにスピード感を持ってコンテンツをあげることを一番に考えました。開設当時は先が見えない状況であったので、息切れしないよう、数日にひとつコンテンツを掲載し、利用者を飽きさせないとともに、職員も過度な負担にならないように取り組むことにしました。</p>
取組の検討プロセス、改善点等	<p>塗り絵や工作などのキットはこれまで館内で行ったワークショップ等の素材を再活用し、動画はシナリオ作成や編集作業といった手間のかかる作業を行わないよう、カメラを固定して定点での撮影、ワンカットでの撮影といった工夫を行いました。</p>
効果、成果、今後の展開	<p>開設以来、サイトには20,000件以上、YouTubeチャンネルには10,000件以上のアクセスがあり、特に「基本展示室360°バーチャル映像」は情報番組でも取り上げられたこともあり、多くのアクセスをいただきました。今後も、基本展示室のコーナー解説やモバイル解説等のコンテンツを掲載する予定であり、ステイホームだけではなく、遠隔地や諸事情でなかなか来館できない方にも楽しんでいただけるよう、充実していきたいと考えています。</p>
工夫した点や苦労した点	<p>土日祝日にも動画の更新ができるように独自のYouTubeチャンネルも設定しました。また、更新情報をSNSに掲載し多くの方にご覧いただけるように情報発信しました。</p>

# 「MieMu@ほーむ」で

# ステイホームを楽しく過ごそう！ 取組概要

## 取組のきっかけ

新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大し、感染予防対策として休館することになった。2020/2/29～3/15まで（さらに、3/31まで延長）一旦4/1に再開したが、4/11～5/11まで休館4/16には緊急事態宣言発令！年度内の展示会やイベントは中止となる。先の見えないステイホームが続くことになった。



## 取組の概要

自宅で楽しんでもらえるようネットを活用した、「MieMu@ほーむ」を公開することに。



3/18：工作・塗り絵6本、さんちゃんの動画など2本、基本展示室展示ガイドなど既存の素材で暫定公開

3/19：北海道博物館が企画し、全国の博物館や美術館の取り組みをまとめた



「うちミュージアム」に参加

4/25：ステイホームの長期化を見据え本格運用を決定！

手間とお金をかけずに動画コンテンツを作成基本的に編集なしでライブ感覚で撮影これまでのフリートークの経験が生かされるミニ講座や生物紹介の動画18本、塗り絵や工作20本、全学芸員の紹介ページなども作成



## 取組の成果

開設の2020/3/19から2021/1月末までのアクセス数は27000回、動画視聴数は11000回以上基本展示360度VR動画は、テレビでも取り上げられ視聴数2600回以上に。



## 取組の課題

ステイホームから始めたが距離・時間・身体的など、様々なディスタンスにより来館できない人にも役立つ取り組みにもなった。

ちょい見せをして実際にMieMuに行ってみたいなと思えるような仕掛けも必要と思った。

バーチャルとリアルのバランスも大事。

## 今後について

「新しい生活様式」の考え方にに基づきながら少しずつ継続して取り組むこととした。

館内モバイル紹介38本、基本展示見どころ動画45本は近日公開予定。



部門名	職員力向上部門
活動テーマ	松阪どぼくゼミ（技術の伝承・技術力の向上にむけて）
アピールポイント	未来をつくる!! 参加実践型コンテンツで中堅・若手職員の技術力の向上・技術の伝承をめざし毎月開催
グループ名	松阪建設事務所 松阪どぼくゼミ
現状や課題、設定した目標	<p>質の高い社会資本整備を行うには、職員の知識や経験を高めることが必要不可欠です。若手職員が減少する中、さまざまな仕事を広く経験することにより現場経験を積んでいくキャリアパスが難しくなっており、技術の伝承・技術力の向上が大きな課題となっています。</p> <p>当事務所では、技術的知識等の情報共有を目的とする技術系職員の会議を「松阪どぼくゼミ」として開催していますが、昨年度は参加者が少なく盛り上がりには欠けていました。</p>
取組の検討プロセス、改善点等	<p>能力向上のためには職場での業務体験に基づくOJTが基本となりますが、周囲に同年代の職員が少なくなり、かつ、年齢の近い中堅職員が多忙なこともあり、円滑なコミュニケーションが図りづらくなっています。</p> <p>このため横のつながりを強化し、短期間で効率よく経験を積めるよう参加者が知識や判断力を深める場となるよう「松阪どぼくゼミ」をブラッシュアップしています。</p> <p>これまでの年4回程度の開催から毎月開催とし、各担当者が事業内容や現場で発生した課題とその解決方法等を発表する事業報告や、WG形式により自分たちで設計を行うなど参加実践型のさまざまなコンテンツを提案し実践しています。</p> <p>また、若手・中堅職員や所属長等に声かけをして参加したい、参加させたいと思えるような環境づくりを行いました。</p>
効果、成果、今後の展開	<p>回数を重ねるごとに出席者が増えており、座談会形式により活発な意見交換を行うことでプレゼンテーション能力が高まっています。</p> <p>特に所長と室長による「技術・知恵の伝承～今伝えたいこと～」と題してこれまでの失敗を踏まえた経験談は初めての試みでしたがこの回は最も参加者が多く好評でした。</p> <p>また、コロナウィルス感染症の拡大により松阪市と連携した新規の砂防事業に向けた溪流調査は延期となってしまいましたが、状況を見ながらぜひとも実践したいと考えています。</p> <p>この取組を通じて知識・経験だけでなく能力を発揮するための人間力、チームワーク、新たなことにチャレンジする勇気を育んでいきたいと考えています。</p>
工夫した点や苦労した点	<p>やらされ感でなくて自発的にやってみようと思えるような学ぶ気持ちを高める工夫に注力しています。また、上司がこの取組を支援し、職員の技術力向上にむけて本気になることも重要となります。</p>

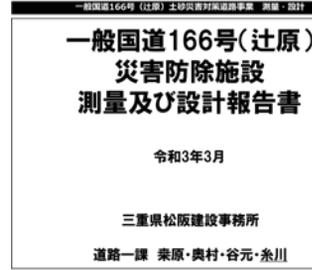
## 取組1 隣の課のことを知りたい！

- 6つの課の担当者がバラエティに富んだ10事業を発表
  - 【道路一課】 道路改良工事、電線共同溝工事
  - 【道路二課】 道路改良工事
  - 【流域課】 河川災害復旧工事
  - 【工事統括課】 橋梁耐震補強工事
  - 【保全課】 排水機場ポンプ更新工事、夜間の舗装工事
  - 【ダム管理課】 ダムの維持管理
- 発表者は事業内容、現場で発生した課題とその解決方法等を発表
- 参加者は自分だったらどう対応するか考えて意見交換



## 取組2 自分たちで設計したい！

- WG形式で2つの事業計画策定にチャレンジ
  - 1 国道166号災害防除施設の事業計画の策定
  - 2 新規の砂防事業計画の策定
    - ・経験者による砂防全体計画策定方法の講義
    - ・松阪市と連携し調査箇所を選定
    - ・用地課職員による公図・登記簿調査
    - ・松阪市職員と一緒に溪流調査（予定）
- 災害査定 of 模擬査定 2箇所



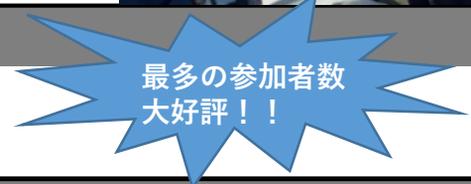
## 取組3 座学からは得られないものがある！

- 現場研修会4回 職員による事業内容や工法の説明
  - 1 オールケーシング全周回転工法
  - 2 百々川排水機場ポンプ更新工事
  - 3 宮川ダムクレストゲート改良工事
  - 4 ドローン操作研修



## 取組4 技術・知恵の伝承！ ～今伝えたいこと～

- 所長・副所長・事業推進室長による失敗を踏まえた経験談



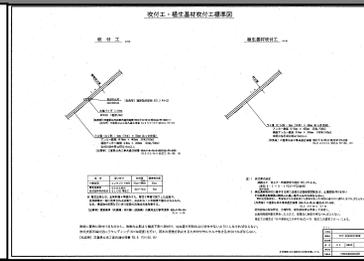
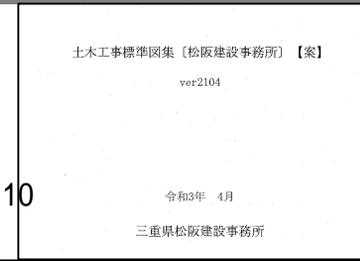
## 取組5 同じミスは繰り返さない！

- リスクの共有（ヒヤリハット集）
- 新採1～2年目の職員による専門雑誌の単純ミス記事の解説
- 事故発生時の対応 3事例



## 取組6 業務をとことん効率化！

- 日常業務の効率化
- 積算業務の効率化
- 事務所統一ルールの共有
- 標準図面集の更新 ⇒ 他の事務所に共有 (共通23、河川砂防6、道路15の計44図面)



部門名	スマート改革チャレンジ部門
活動テーマ	データベースを利用した立入検査証の作成について
<b>アピールポイント</b> 大気・水環境課を含む環境生活部の4課では、複数の立入検査証の作成に3ヶ月程度の時間を費やしていたが、データベース（DB）を利用した立入検査証作成システムを作成し、決裁を含め、約1週間程度で作成することが可能となりました。	
グループ名	大気・水環境課
<b>現状や課題、設定した目標</b> <b>【現状】</b> 大気・水環境課が所管している18の法令・条例で定める立入検査証は、それぞれ様式（サイズ、記載事項）が異なり、各法令担当者が表計算ソフトを用いて作成していました。作成だけではなく、名前や生年月日のチェックや押印に必要な書類の作成にも多くの時間が費やされていました。 <b>【課題】</b> 検査証の作成、チェック量（時間）、知事印等の押印に必要な書類作成時間を減らし、早い現場職員への配布を必要としていました。	
<b>取組の検討プロセス、改善点等</b> <b>【プロセス】</b> ①各法令等の様式（フォーマット）をDBレポートとして作成 ②各法令で決められた書式内容と、記載すべき事項、押印時に必要となる様式記載内容を整理したDBの設計 ③各所属の入力フォームの作成 ④知事印、県印押印決裁のための自動集計表作成 ⑤試験入力及び稼働問題の解決 <b>【改善点等】</b> ①他所属（地球温暖化対策課、廃棄物・リサイクル課、環境生活総務課）が所管する法令等の立入検査証の追加	
<b>効果、成果、今後の展開</b> <b>【効果】</b> ①1000件以上のデータ入力作業から200件程度の入力データへ減と、同量のチェック作業の減 ②写真データの自動取り込み機能を組み込んだことで、写真データの加工作業の減 ③DBレポートでの両面印刷による印刷のミス減 ④データ入力は、必要とする所属での入力としたため、入力ミス減、確認作業を分散することでの作業時間減 ⑤部内で共有し、各課の作業時間短縮 ⑥操作マニュアルにより、設計者の異動後も使用、修正可能 <b>【成果】</b> 作成業務の減、作成時間の短縮、職員の負担減	
<b>工夫した点や苦労した点</b> <b>【工夫した点】</b> ①各法令での立入検査証番号の付し方 ②役職での職員順の並び替え方 ③各担当者の入力の容易さ ④入力しながら入力した内容が見えるなど、入力・確認方法を工夫	

# データベースを利用した立入検査証の作成について

## 問題点

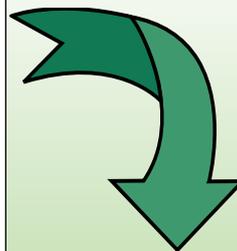
1. 16の法等で18種類、対象者が1種類で40名程度 **約720枚** (大気・水環境課分)
2. 各法等で立入検査証の**サイズが異なっている**
3. 各法等で**有効期限が異なっている**
4. 「氏名」「生年月日」「有効期間」の**確認作業プロセスが多い**
5. 人事異動、事業委託業務、実績報告提出などの**忙しい時期に作る**
6. 「チェック・印刷・カット・押印」に**3ヶ月間も要する**

## R2作成数

大気・水環境課	13法 3条例	739枚	} <b>計 1,274枚</b>
地球温暖化対策課	2法	68枚	
廃棄物・リサイクル課	4法 3条例	409枚	
環境生活総務課	補助金等交付規則	58枚	

## 検査証作成プロセスを削減

- 各所属が表計算ソフトに入力
- 環境生活総務課がシートをとりまとめ
- 各担当課が表計算ソフトに各法令等ごとに「氏名」等を入力して立入検査証を作成
- 「交付同簿」「受領確認簿」に「氏名」等を記載して作成
- 「立入検査証」の枚数を各法令ごとに数え、一覧表を作成
- 印刷（一覧表、交付同簿等）→ 決裁 → 印刷 → 押印 → 配布



- 入力は1回のみ**
- ボタン一つで印刷**
- 有効期間も自動入力**
- 交付数も自動カウント**

- 各所属がDBに入力
- 各担当課で印刷（一覧表、交付同簿等）→ 決裁 → 印刷 → 押印 → 配布

**作成期間は 3ヶ月 → 1週間程度に短縮**

**操作マニュアルも作成**

皆が使えるソフトウェアで作成したこと、組織名、役職名や知事名を変更できる設計のため、長く継続して使えます。

**工夫**

部門名	自由テーマ部門
活動テーマ	医療用ガウンの代替品作成ボランティア活動
アピールポイント	<p>コロナ禍の緊急事態で逼迫する医療現場とそこで頑張っている医療従事者を支援・応援し、新型コロナウイルスと真っ向から戦おうと県税事務所職員が立ち上がりました！</p>
グループ名	イガケンゼイ♪メイクガウン・プロジェクト
現状や課題、設定した目標	<p>新型コロナウイルス感染拡大により令和2年4月全国に緊急事態宣言が出されました。事務所では来客窓口や執務スペースにアクリル板、透明シートで遮断、換気対策を徹底するなど県民と職員の安全を確保しました。さらに守るだけでなく、未知のウイルスに対して攻めることができないか考えている中、医療機関において医療用ガウンが不足していることを伝え聞きました。そこで特定非営利活動法人みえ防災市民会議が募集していた医療支援ボランティアに参加し、代替品を作成し医療機関に提供することにしました。</p> <p>作成メニューは、医療用ガウンと袖なしエプロンの2種類あり、作業効率を考慮して医療用ガウンのみに絞って、令和2年5月1日からスタートし6月末を目途に月産400着を目標に活動を始めました。しかし新型コロナウイルス感染が6月末までに収束せず、7月以降も活動を続けることとなりました。</p>
取組の検討プロセス、改善点等	<p>事務所内でメンバーを募り、自宅で作業することからその家族も巻き込んでいきました。また、当初はみえ防災市民会議の事務局のある伊勢地域の医療機関のみに提供していましたが、管内である伊賀地域の医療機関にも自ら働きかけ、伊賀市災害ボランティアセンターの協力も得て地元の3医療機関も支援することになりました。</p> <p>チームの地元の病院を支援・応援できることからメンバーのモチベーションがさらに上がりました。</p>
効果、成果、今後の展開	<p>成果としては5月から9月の5か月間で2,000着の医療用ガウンを提供し、これは三重県内外51団体が県内15病院に10,000着の医療用ガウンとエプロンを提供した全体の内の2割を占めています（令和2年9月末現在）。</p> <p>また、若者が今回初めてボランティア活動に取り組む機会を提供することもできました。</p> <p>作成したガウン一着一着には感謝や応援のメッセージを添付することで、医療従事者の皆さんに感謝と応援の気持ちを伝えることができました。</p> <p>さらに、職員が庁外の主体と一緒にになって地域課題の解決に向けて取り組むことで、多様な人材づくりにも繋がりました。</p> <p>コロナ禍で仕事以外のコミュニケーションが減る中、事務所内のチームワーク醸成の効果もあると考えられます。</p> <p>これまで約11か月間の活動を通して多くの医療機関の皆さんにご協力をいただきました。お忙しい中、本当にありがとうございました。</p> <p>今後も早期の新型コロナウイルス収束を願いつつ、医療従事者の皆さんや新型コロナウイルス対策関係機関の皆さんに感謝と応援の気持ちを伝えていきたいと考えます。</p>
工夫した点や苦労した点	<p>作業工程を「切り裂き班」「袖カバー班」「エプロン班」「接着班」「メッセージ班」「検品班」の6班体制で効率を上げる工夫をしましたが、メンバー各自の技術や思いに差があることから各班の進捗管理に苦労しました。</p>

# 医療用ガウンの代替品作成ボランティア活動

## 新型コロナウイルス感染拡大

令和2年4月 緊急事態宣言

現状・課題

感染拡大を災害と捉えて

命を守る！感染  
防止対策の徹底

攻めることができないか？！

医療資材の不足と逼迫する  
医療現場のニュース

【医療用ガウン作成ボランティア活動募集】  
「NPO法人みえ防災市民会議」

医療用ガウン作成ボランティア開始！  
(R2. 5月～6月 月産400着目標)

R2. 6月で収束せず7月以降も継続・・・

検討プロセス

### ○メンバー募集

事務所内でメンバー募集→その家族も巻き込む 有志(小学生・高校生含)15名でスタート！

### ○支援対象医療機関の拡大

伊賀地域の医療機関にも自ら働きかけ→伊賀市災害ボランティアセンターの協力を得る  
地元3医療機関も支援・応援することに→メンバーのモチベーションがさらにアップ！！

### ○効率化とガウンに熱い思いを乗せて

6班体制で効率化+ガウン一着一着に医療従事者の皆さんに感謝と応援のメッセージを添える

ポイント

### ○チーム内の連携

- ☆事務所休憩室にガウンブース設置 資材の受け渡し 進捗状況の共有
- ☆メンバー同士がグループラインで情報交換、NPO法人等の情報共有
- ☆6班体制の進捗管理に苦労した・・・メンバー各自の技術や思いに差がある



休憩室のガウンブース

### ○庁外の主体との連携

- ☆NPO法人みえ防災市民会議・・・医療機関のニーズ把握・提供先拡大とガウンの受け渡しを連携
- ☆伊賀市災害ボランティアセンター・・・伊賀地域の医療機関へのガウン受け渡しを連携
- ☆他チーム(約50チーム)・・・グループラインとメールで作成技術や連帯感を共有

効果・成果・展開

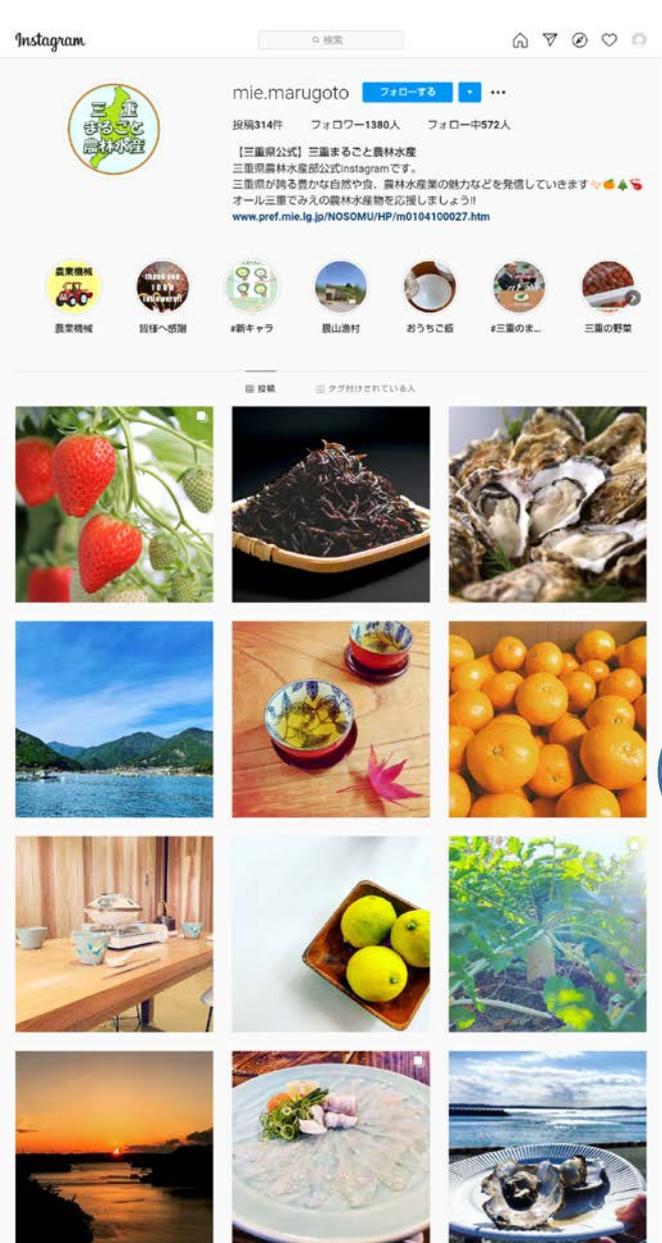
### ○効果、成果、今後の展開

- ◎医療用ガウン2,000着提供(5ヶ月間)・・・県内取組全体10,000着の2割を占めた
  - ◎医療従事者の皆さんへ感謝と応援の気持ちを伝えることができた
  - ◎若者のボランティア活動機会の提供・・・若手職員、小学生、高校生
  - ◎庁外の主体と一緒に地域課題の解決に向けて取組む→多様な人材づくりに繋がった
  - ◎事務所内のチームワークの醸成効果・・・コロナ禍での日頃のコミュニケーションの確保
- 取組にご協力いただいた医療機関の皆さん、ありがとうございます。今後も医療従事者の皆さんや新型コロナ対策関係機関の皆さんに感謝と応援の気持ちを伝えていきたいと考えます！

# “素人×ゼロ予算”の挑戦！ インスタによる「みえファン」づくり

～成功の秘訣は「地道にコツコツ」～

⇒「インスタ素人」「予算なし」のスタートながら、  
わずか1年足らずでフォロワー数1600人超えを達成！



農林水産物や自然公園など、  
みえの魅力をほぼ毎日発信！

職員自ら撮影した  
「素人写真」を積極活用！

農林水産部公式インスタグラム  
「三重まるごと農林水産」  
ぜひフォローお願いします！



オリジナルキャラクター  
「みつまるくん」



